

2019 J2 ■順位表■ 第16節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	山形	32p	+10	19	9	HO
2	水戸	30p	+9	15	6	H●
3	甲府	29p	+12	24	12	A●
4	京都	29p	+9	22	13	H△
5	大宮	28p	+6	19	13	
6	長崎	27p	+6	21	15	H●
7	柏	27p	+5	13	8	A●
8	金沢	24p	+9	21	12	H●
9	琉球	23p	+3	22	19	HO
10	岡山	23p	+1	18	17	HO
11	東京V	21p	-1	21	22	
12	横浜FC	21p	-1	18	19	A●
13	町田	20p	-7	15	22	H●
14	徳島	18p	-2	16	18	A●
15	千葉	18p	-7	18	25	A●
16	新潟	17p	-1	20	21	
17	栃木	16p	-6	14	20	A△
18	福岡	16p	-8	13	21	
19	愛媛	15p	-7	13	20	A●
20	山口	15p	-8	21	29	
21	鹿児島	14p	-7	12	19	H△
22	岐阜	12p	-15	12	27	--- ---

次回HomeGame

第20節 vs.東京ヴェルディ
6/30 (日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : アルビレックス新潟

2018 J2 15勝 8分19敗 勝ち点53:16位

直近の対決と結果

2018/09/08
J2 - 32節@デンカS

新潟 5-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		アルビレックス新潟	
2019/06/01	J2 - 16節@三協F 柏 柏 1-0 岐阜	2019/06/01	J2 - 16節@デンカS 新潟 0-2 甲府
2019/05/26	J2 - 15節@長良川 岐阜 1-2 町田	2019/05/25	J2 - 15節@タビスタ 琉球 2-1 新潟
2019/05/19	J2 - 14節@フクアリ 千葉 5-1 岐阜	2019/05/18	J2 - 14節@デンカS 新潟 2-3 愛媛

●苦しいシーズンが続くFC岐阜。5/26 (日) 第15節・ホーム町田戦は、前節のアウェイ千葉戦での大敗を教訓に、今季初となる3バックで布陣を組んだ。しかし選手の動きに精彩を欠いた岐阜は、前半にPKを献上し、アディショナルタイムにも追加点を許してしまう。その後も精彩を欠く岐阜は、試合終盤になってようやく勢いづき攻勢に出るが、前半の2失点が重くし掛かり、相手のゴールをこじ開けることができない。結局、後半アディショナルタイムに#24 粟飯原尚平が1点を返すに留まり、1-2で敗戦となってしまった。続く6/1 (土) 第16節・アウェイ柏戦では、上位チーム相手に再び3バックの布陣で挑むFC岐阜。戦術を修正した岐阜は、柏にボールを支配されるものの、素早い寄せと集中した守備で柏に決定機を作らせない。しかし、試合終盤になって守備のわずかな隙を狙われて#26 オルンガの個人技でゴールを奪われてしまい、0-1での悔しい敗戦となってしまった。

これでFC岐阜は、8試合未勝利の後、1勝を掴んだものの、再び4連敗を喫してしまった。岐阜が勝ち点を伸ばせずに最下位を抜け出せない中、他の下位チームは勝ち点を積み上げており、少しずつではあるが、その差が離されてきている。20位・山口が勝ち点差3、14位・徳島が勝ち点差6だ。この状況で、クラブは5/29 (水)、「FC岐阜を応援するすべての皆様へ」と題する宮田社長の声明を発表した。これは「昇格後、クラブ史上初となる出来事であり、クラブの危機意識が明らかになった訳だが、『これから残る27試合をクラブ全員一丸となり、あらゆる方策を講じて戦って参ります』という宮田社長の言葉はどのような形で具体化されるのだろうか。残り26試合、我々も今まで以上にクラブを応援・サポートしつつ、見守っていく必要があるだろう。そして、チームはその言葉通り『一丸となって』、今節こそ勝利を掴み取って欲しい。

さて、今節の対戦相手はアルビレックス新潟だ。昨シーズンは14年ぶりにJ2に降格して、1年でのJ1復帰を目指していたが、まさかの16位。今季も戦力を増強してJ1復帰を目標にしていたが成績が振るわず、第9節終了後に片濑浩一郎監督を解任し、アカデミーダイレクターの吉永一明が新監督に就任。しかし、その後も成績はなかなか向上せず、現在は4連敗中で順位も16位にまで低下している。とはいえ、現在の岐阜よりは上位の対戦相手、当然ながら簡単な相手ではない。両チームとも必死に連敗脱出を目指し、激しく厳しい試合になることが予想される。公式戦初対戦となった昨季の対戦成績は、FC岐阜の1勝1敗・2得点6失点。9/8 (土) のアウェイ戦では0-5と大敗したが、5/26 (土) のホーム戦では2-1で逆転勝利を挙げている。

新潟の要注意選手には、現在5得点の#9 レオナルドと4得点の#18 渡邊凌磨を挙げる。また、新潟には#14 田中達也、#19 矢野貴章といった元日本代表選手や、世代別代表に選ばれた選手たちが名を連ねているし、先述の#9 レオナルドを始めブラジル人選手が6名も揃っている。一方の岐阜だが、4連敗のうち前節の柏戦以外は、前半20分以内に先制点を奪われており、これを克服することがまず必要だ。そのためには、中盤でのボール奪取、攻守の切り替えを選手全員で実行することが重要になる。これまで新潟は4-2-3-1の布陣を採ることが多いが、岐阜がどのような布陣で対応するかにも注目だ。機能し始めた3バックで臨むのか、それとも4バックに戻すのか。大木監督の采配と、その起用に依る選手たちの活躍を期待したい。

厳しく苦しいチーム状況が続くが、止まない雨はなく、終わりのないトンネルもないと信じよう。勝利を目指して最後まで集中を切らさず、ひたむきに走る選手たちを信じて、その背中を押す、力を与える拍手と声援を送ろう。今節こそ、勝利の歓喜を、このホームスタジアムで、選手たちと共に分かち合おう。
(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第15節】岐阜 1-2 町田

●陸上併催となった日曜ナイター。開場からキックオフまでの時間が短いこともあり、開場前の先行入場は長い待機列。用意していた『岐大通』800部は、すぐに配布が終わってしまった。これは、シーズンチケットを買っているサポーターが増えている証拠だから、それ自体は良いことだと思うのだけど、一般入場の待機列もそこその長さだったと思うのだけど、それで観客が4,538人とは…いや、もちろんJ2昇格時に比べれば、ずいぶん増えたのは間違いないんですが（苦笑）。日曜ナイターだからという要因もあるのだろうけれど、少し一般の観客数が減ってきている気がする。やっぱり、成績が振るわないと、観客動員にも影響するよねえ……（溜息）。さて、布陣は前節・千葉戦の後半と同じく、J初スタメンの#17藤谷匠も入れた3バック。これで守備が安定して、中盤での寄せ（チェック）が良くなれば……。

で、試合開始直後は良いんですよ、岐阜のボール回しが。前を向いてプレーできているし、パスを受けるための動きや、ボールへの寄せも良い。だけど、これが10分ぐらいいか保たないんだよなあ…最近はずっと、そんな感じがします。相手に修正されてしまうっていうのも原因なんだろうけれど、こちらの動きも悪くなってる気がする。そして、ショートCKからPA内でボールを受けた#24ロメロ・フランクを、#6三島頌平が引き倒してPK献上…。思いつきリユニを掴んで倒して、CKだから主審の目の前でアレやっちゃあ、そりゃ笛吹かれるよ…（溜息）。#25ビクトルも止められず、前半に先制点を奪われる。もっとも、この1失点で我慢できれば良かったのだけど、前半終了直前に、ショートカウンター気味にボールを縦に入れられ、再び#24ロメロ・フランクに突破されて2失点目…完全に、1人の選手にやられた前半。後半すぐに、#23小野悠斗を投入。すると、岐阜のリズムが良くなったように感じた。#31宮本航汰が大怪我をして戦列を離れてから、中盤でボールに寄せたり、あるいはボールを受ける彼の動きと豊富な運動量が岐阜のサッカーには不可欠だったことを痛感させられていて、その代役は誰なんだろうと思っていたのだけれど、僕の感覚ですと、どうも#23悠斗だったようです…。そして、#11前田遼一、#14風間宏志と、次々と攻撃のカードを切る岐阜。それに伴い、攻撃のリズムは上がるのだけれど、やはりゴールが遠い…今回もそうだとすると、いつも同じ選手間で交替しているのを変えてはダメなんだろうか？個人的には、#10ライザと#11前田の2トップとかみてみたいんだけどなあ……（溜息）。

後半アディショナルタイムに#24栗飯原尚平のバースデーゴールで1点は返したけれど、そこまで。前半の流れが悪く2失点が重くのし掛かり、また、攻撃のスイッチを入れるのが遅すぎた。90分間続けるのは無理なのかもしれないが、前半から、試合終盤のような動きを、気迫を出せていたら…対戦相手が、苦戦している今季の町田ただだけに、非常に残念な敗戦だった。

（ささたく）

●終了のホイッスルが鳴った瞬間、ピッチ上に描き出された光景は、まさに既視感。息も絶え絶えにピッチに横たわる町田。うなだれて立ち尽くす岐阜。昨季もその前の年も見たような……、というのが、昨季の町田戦の感想でした。

今回もほぼ似たような情景になりましたが、少し違っていたのはウチの選手もかなりピッチに倒れ込んでいたというコト。わかります。後半、特に最終盤にかけて怒涛の攻めを繰り返していましたがもんね。もう一点、あと二点。栗飯原のゴールは、まさに執念のゴールでした。勝ち点まであと少し。惜しかった。ただ、厳しい事を言うようですが、終了後のその情景。町田とウチのソレは等価値だったか、どうか。試合開始からプレッシャーをかけ続けた町田。それを受けるのに必死で、ついには受け切れずに失点。しかも、その失点がまたダメージのデ

カすぎるミスからです。たしかに、相手の切り返しは上手かった。交わされた時点で勝負あり。それでテンパってしまったのかもしれないが、あんなにあからさまに手を使っては、もう、どうにもこうにも……。ゴール裏の素人の目から見ても「あ、ヤバイ！こりゃ、ダメだ。」とわかりました。もちろん、ファウルを取られなくても失点したかもしれない。でも、PKをビクトルが止める&相手が外すのと、流れの中からのシュートをビクトルが止める&相手が外すのでは、どちらが可能性が高いんでしょうね？しかも、流れの中ならビクトル以外の選手が防ぐ可能性もあったはず。まあ、PA内にいた他の町田の選手が決める可能性も出て来るんですけどね。とにかく、6番には猛省を促したい。

そして、一点差で後半に巻き返しを……、とっていた前半終了間際に、また失点。3人で囲んでいながら止められなかったのは痛かった。失点数こそ半減したものの千葉戦の反省、総括。できてましたか？活かせてましたか？

急造？3バックでしたが、初スタメンのタクミを始めよくやってくれたと思います。しかし、この試合にかける執念は残念ながら町田の方が上だったように思います。順位からもわかるように、ここまでの町田は好調とは言えない。だからこそ、順位が下のウチには負けられない。そんな執念が垣間見えました。ほんの少しでも時間があれば水を取る。そして、ハードワークを繰り返す。最前線の選手がしっかりポストをこなしていたことも要因ですが、ボールを繋ぐ、スペースに走るといった献身的なプレーのひとつひとつで後れを取っていたように思えてなりません。これでは、拍手で迎えることはできない。今季、先制したのは開幕節の山形戦だけでしたかね？総得点数、得失点差が共にリーグ・ワーストのチームが判で押したように先制され、失点を重ねてはどうしようもないですよ？スタメンもこれが現状のベストメンバーですか？もちろん、使われない、使えない事情はあるのでしょうか。でも、大木監督のサッカーも初年度からとは大きく様変わりしています。GKから繋いでいくことはほとんどありません。そして、今の3バックなら、ワイドな位置にも中盤にももっと適した選手がいるんじゃないか？いろいろ考えなければならぬような気がします。

とはいえ、自分に出来ることは応援だけ。アウェイ柏戦も精一杯応援してきます！

（ぐん、）

●「見る影もない」って、こういうことを言うんだろうか。残念ながら、町田からはかつての『リアリスト王』ぶりは感じられなかった。けれど、その町田相手に、岐阜はなにか能動的に『仕掛ける』ことが出来たのだろうか。サイドの守備に不安があるからか、最初から3バック。でも、試合から感じたのは『挑戦』ではなく『迷い』だった。最終ラインでボールを奪っても蹴り返す。とにかく繋がらないで蹴り返す。でも、闇雲に蹴り返すので拾われて波状攻撃を受ける。「策に溺れる」というより「策に溺死する」ようなサッカー。ホントに、町田には失礼な表現になっちゃうけど、「ああ、この町田にこのサッカーになっちゃうのか」と、岐阜の現実を見せつけられた90分だった。あれだけ「完成したら面白い」と言われていた大木サッカーは、いまいずこ。最下位でいることには理由がある。

（吉田鑄造）

【第16節】 柏1-0 岐阜

●2010年以来、9年ぶりとなる“日立台”。まあ、アウェイ席は完全に隔離されて狭いスペースに押し込まれ、スタグルも2店しか提供しないっていうんだから、サッカー専用スタジアムって事以外は、それはひどいスタジアムなんです（苦笑）。

さて、岐阜の布陣は前節・町田戦と変わらず3バック。そして中盤には#23 小野悠斗と#30 中島賢星をスタメン起用。これで柏の攻撃陣に対処できるのか…。んで、対処出来ちゃってるんですが（苦笑）。やっぱり、#23 悠斗が良い位置に顔を出してくれて、それが奏功しているように感じた。ボールは柏に支配されている…あるいは『ボールを持たせている』（？）時間が長かったけれど、中盤の選手がしっかりと寄せ、あるいはカバーし、#26 オルンガにボールが入ってきても3バックが跳ね返す。1回だけ、ヒヤリとする場面があったけれど、それ以外は危なげなく（？）前半終了。えーと、前半に失点しなかったのって何試合ぶり？（苦笑）。

ホーム側からブーイングは出なかったけれど、後半開始で柏は2枚替え。しかし流れはほとんど変わらず、柏はすぐに3枚目のカードで#10 江坂任を投入…というか、どうして#10 江坂がベンチにいるんだ、温存か（苦笑）。さすがに#10 江坂が中盤に入ると決定機が生まれるようになるが、それでも最後の所で岐阜の選手たちが身体を張り、また#25 ビクトルのファインセーブでゴールを許さない。ジリジリと時間が過ぎてゆき…と、#23 悠斗に替えて#14 風間宏矢を投入。ここで僕は不安になった。ここまで何とか無失点でやってこれたのは、僕の間では#23 悠斗の貢献が大きい。#14 宏矢は攻撃的な選手だから、残り時間で点を獲りにいくのは分かるけど、#23 悠斗の替わりにはならないんじゃないか？…そして実際、やはり中盤での寄せが甘くなり、防戦の度合いが強まってくる。もちろん、選手全員の足が止まってきたのも原因だろうし、あるいは（最近試合に出ていなかった）#23 悠斗は90分間は難しいのかもしれない。それでも、なんとか柏の攻撃をしのぎ続けて、このまま引き分けに持ち込めるか…？との思いが浮かびかけてきた頃、中盤で寄せきれなかった隙を突かれて#9 クリスティアーノがゴール前にループパス→

#25 ビクトルが飛び出して#17 藤谷匠との交錯プレーの間に#26 オルンガが割り込んで足で触って、ボールは無人のゴールに…。あと少し、もう少しだったんだけどなあ…（溜息）。選手たちも手応えを感じていたんだろう、挨拶に来た時には相当悔しそうな表情を浮かべていた。それに日本代表・#23 中村航輔も試合中荒れていたから、相当に柏を苦しめたのも間違いない。だけど、勝ち点を得られなかったのも事実。手応えという収穫と、結果という反省をしっかりと胸に刻んで、今度こそ勝利を掴み取って欲しいものです。

ちなみに負け惜しみになりますが（笑）、あの戦い方では、柏のJ1復帰は厳しいだろうなあ…と。スタジアムが開門した直後、柏のゴール裏にはダンマクが張られてました（ピッチ内練習が始まる前には撤去されてましたが）。端的に言うと『フロントと話をさせろ』って書いてあって、「あー、なんか色々あるんだろうなあ」と思いました。まあ、僕は他人の心配をしている余裕はありませんので、自分たちのことに集中しないといけませんけどね！（苦笑）（ささたく）

●久しぶりの日立柏サッカー場。9年ぶりかな？前は目の前で昇格決められたっけ。ただ、あの当時とはすっかり様変わり。ホームとアウェイの位置が入れ替わり、ホーム側ゴール裏の席が増設され、名前もネーミングライツで『三協フロンテア柏スタジアム』になっていた。それでも、専用球場の臨場感。目の前にゴールネットが揺れる情景は変わらない。立見席しかないゴール裏から眺めていると、自然とアツイ気持ち湧き上がってくる。この思い、届け！と精一杯の声を

張り上げたのだが、あと一步届かず。終了間際に痛恨の失点。またしても、勝ち点に見放されてしまった。全体的には柏に主導権を握られた印象。ボールの支配率もそれを物語るが、それでもやられっぱなしだったわけではなく、ここ数試合続いた軽いプレーもなかった。さらに、柏の出来もよかったとは言えない。日本代表GKを始め、そもそもJ2にいるのがおかしい戦力。当然、ダントツで首位辺りを走っていてもおかしくないのだが、現在の位置にいるのもさもありなんといったミスが散見された。つけ込む隙はあったし、決定機も作ったのだが決めきれず。

特に失点直前のゴール前では「撃て！シュート撃て！！」と心の中で絶叫する場面もあったのだが、けっきょくシュートまで至らなかったのは現状から来るプレッシャーとかのせいだろうか？どうしても、確実性に重きを置いてしまい、思い切りのいいプレーが選択できていないように思える。あくまで推測だが、そうなる気持ちはわからないでもない。ただ、それでも撃ちきってほしい。シュートしなきゃ始まらない。ゴールを決めるためにプレーしているハズ。最後はシュートで終わってほしい。

気温同様、アツイ試合だった。情熱のマグマが吹き上がってしまっ、試合の前後にもいろいろアツくなる情景もあった。意見は人の数だけあるだろう。アツくなっても構わない。ただ、それは勝利をつかむための原動力にしてほしい。少なくとも、選手達を支える力にしたい。

この日のような試合をすれば結果は出るか？と問われて、即座に肯定することにはためらいがある。相手が柏だったから、ウチへの対策云々ではなく、柏のスタイルで戦ってくれたからの内容と言えなくもない。J2の常連さんたちは、もっとイヤらしくウチの弱点を突いてくる。もちろん、それを乗り越えなければ残留も果たせない。さて、この後の試合は新潟、大宮と元J1が続く。半端な相手ではないが、向こうはどんなスタイルで来るのか。自分たちのやりたい形か、ウチの弱点を突いてくるのか。いずれにせよ、勝つしかない。勝たなければ現状から抜け出せない。選手には柏戦以上の集中力を。自分は精一杯の後押しを。そしてバンザイ四唱を！（ぐん、）

